

International Student Center News



金沢大学留学生
センターニュース



Vol. 16
December 2012



にっけん こうどうぶん かたいけん ねん
日研・KUSEP 合同文化体験 2012年
 のと てんりとうさい
能登の天領祭



にほんぶん か しやかいたいけん ねん
日本文化・社会体験コース 2012年
 おおひ やき つち ほのお おおひ とし おせんせい
「大樋焼 - 土と炎」 大樋年雄先生



ねん にほんぶ どうたいけん しょうどう
ジャパンテント 2012年「日本武道体験・杖道」
 きやうりく かなざわだいがく こくさいき こうりゅうがくせい
(協力：金沢大学・国際機構留学生センター)



かなざわだいがく こくさいき こうりゅうがくせい きかく
金沢大学国際機構留学生センター企画
TOEFL セミナー 2012年



はけんりゅうがくせい つめいかい ねん
派遣留学説明会 2012年



かなざわだいがく こうりゅうがくせい おおひ やき しょうどう か どうてん ねん
金沢大学留学生による大樋焼・書道・華道展 2012年
 いしかわこくさいこうりゅう
(石川国際交流サロン)



あた たいせい た よう よ そ 新しい体制のもと多様なニーズに寄り添う

かなざわだいがくこくさいきこうりゅうがくせい
金沢大学国際機構留学生センター長 志村 恵

留学生センターは、2012年4月より国際機構の一部門となりました。わたしたちは教育・研究の国際化を進める金沢大学にあって、全学の協力の下、センターのミッションをこれまで以上に果たして行きたいと思っています。そうした中で特筆すべき本年度の取り組みを以下に紹介します。

まず、2011年度の後期より始め現在も継続している日本文化体験コースの共通化です。一年間のトリアル実施を終え、2012年度後期より本格実施化がなされました。これは、前期10クラス、後期6クラスの合計16クラスを、センターが運営する各プログラムの参加者だけではなく、全学の留学生および日本人学生へも開放するものです。従来は、プログラムごとに日本文化体験コースが設置されていたのですが、この共通化によって、より効率的にクラス設計できるだけでなく、プログラムごとに分断されていた留学生たちの相互の交流が促されたほか、日本人学生も共に学ぶことで、日本人学生との交流も活性化されました。また、日本人学生自身にとっても、日本文化、特に金沢文化に親しむよい機会となっています。グローバル人材の育成にあつては、自文化への理解と認識はアイデンティティ形成の点で重要であるとよく言われますが、なによりも学生たちに好評だということは嬉しいことです。

次に、「セメスタープログラム」(前期)です。2012年度は、対象大学を増やしたこともあり、3ヶ国3大学から11名の参加がありました。本センターの中心プログラムである金沢大学短期留学プログラム(KUSEP)は、一年間の在籍を前提とした交換留学プログラムですが、以前より半年間の留学を希望する提携大学が多数ありました。「セメスタープログラム」は、こうした半年間の留学を希望する学生のための受け皿として2010年度に創設したものです。2年目の2011年度は、東日本大震災の影響で通常のプログラム実施とは違った変則的なものとなりましたが、今年度の実施によって、このプログラムもようやく通常化が図られ、本センターが提供するプログラムの大きな柱の一つとなりました。

さらに、本年度後期より金沢大学短期留学プログラム(KUSEP)の理工系プログラムが試行されます。これは、自分の専門分野の実験などを希望する理工系の学生に、KUSEPの科目の他、理工系の研究室における指導・教育を提供し、金沢大学においても研究の継続を図るとともに、金沢大学に慣れ親しんでもらい、将来の進学につなげようというものです。本年度は7名の学生の参加が予定されています。また、日本語・日本文化研修コース(日研生)は、参加学生が20名と大盛況です。これは、学生の主体的な学習を促す教育上のさまざまな工夫によるものと思われま。

最後に特筆すべきは、2011年度よりトリアルで実施している金沢大学ショートステイプログラム(KUSS)です。このプログラムは、JASSOのSS奨学金に採択されていますが、北米の協定校を中心とした大学を対象大学とした3週間のプログラムです。そして、年末年始をはさんだ時期に実施されることが特徴です。全国的にサマーコースは盛んですが、冬休みに実施されるこのコースは新たなニーズに対応するものとして注目されます。KUSSでは日本語と日本文化の授業のほか、日本人学生の家庭にホームステイをし、年末年始の日本の生活文化や行事を体験することができ、参加学生に大変好評です。同時に、なかなか半年・一年の留学には踏み切れない学生や日本学・日本語のメジャー課程をもたない大学にとって、参加・派遣しやすいプログラムでもあります。KUSSは、さらに長期の日本留学につながるものとして期待されており、本センターの提供する重要なプログラムに成長しつつあります。

以上のように、本センターは多様化している留学生のニーズにしっかりと寄り添いながら、これまで以上に金沢大学の国際化に貢献していきたいと思ひます。諸兄弟のさらなるご鞭撻ご協力をお願いします。

総合日本語プログラム

1. 総合日本語プログラムのご紹介

金沢大学留学生センターでは、本学で学ぶ全ての留学生を対象とした日本語プログラムを開講しています（下記参照）。このプログラムは1998年から現在の形で開講されていますが、プログラム開設時から14年がたち、本学の留学生と彼らを取り巻く状況もかなり変化してきました。こうしたことから、より留学生のニーズに合った日本語コースを提供するために、現在、プログラムの改編作業を行っています。今年7月に実施した全学の留学生を対象とした総合日本語プログラムについてのアンケートでは、多くの留学生の皆さんにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。留学生センターでは、これらの調査結果をもとに、今後、より本学の留学生にとって有益な日本語の授業を提供していきたいと考えています。

場所	角間キャンパス					宝町	
種類 レベル	総合日本語 クラス (週3,4回)	漢字・語彙 クラス (週1回)	技能別クラス (週1回)			ビジネス 日本語 (週1回)	医学部補講 (週2回)
			読む	書く	聞く&話す		
初級	AS (Survival) A1 (Regular) A2 (Regular) AA (Intensive)	漢字・語彙 1					医学部 入門
	B	漢字・語彙 2					医学部 初級
	C1	漢字・語彙 3	初級読解	作文 I			医学部 中級
中級	C2	漢字・語彙 4					
	D	漢字・語彙 5	中級読解*	作文 II*	中級聴解		
上級	E	漢字・語彙 6	上級読解*		講義聴解* 口頭発表*	ビジネス 日本語 I～VIII	
	F	漢字・語彙 7	専門読解* (前期)	レポート作成*	日本事情 I** 日本事情 II**		

* は共通教育科目の言語科目「日本語 B」としても開講しています。

** は共通教育科目のテーマ別科目としても開講しています。

履修登録期間：(前期) 3月中旬～4月中旬、(後期) 9月中旬～10月中旬

詳しい情報は留学生センターホームページに掲載しています。

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

2. 秋学期から新しい初級クラス（ASクラス）が出来ました！

金沢大学総合日本語プログラムに、この秋から新しい初級前半レベルのクラス（Survival Japanese）ができ、総合日本語プログラムの初級前半のクラスは全部で4種類になりました。

① AA クラス（Intensive Japanese）

半年で初級を修了する集中コースです。このクラスに合格すると、通常はC1クラス（初中級クラス）に進級することができます。月曜日から金曜日の1、2時限（8:45-12:00）まで授業があります。このクラスを希望する学生は、指導教員の許可を取る必要があります。このクラスはひらがな、カタカナをマスターすることはもちろん、漢字1クラスも必修です。

② A1 クラス、A2 クラス（Regular Japanese）

最も標準的なクラスです。日本語をしっかりと学びたい学生は、出来るだけこのクラスを受講することを勧めます。A1クラスは、初めて日本語を勉強する人のクラスです。A2クラスは日本語を少し勉強したことがある人のクラスです。どちらのクラスも、合格すると、初級後半のBクラスに進級することができます。このクラスの受講者は漢字1クラス（週1コマ）も受講することが強く求められます。ひらがなもマスターすることが求められます。

③ AS クラス 新クラス（Survival Japanese）

専門の勉強で忙しくて日本語の勉強にたくさん時間を使うことができないけれども、日常生活に必要な日本語はできるようになりたい学生のために、この秋学期から新たに開講しました。このクラスは①、②のクラスと違い、次のような特徴があります。

- (1) 週4回のクラスですが、1回の授業時間は45分です。（他のクラスは90分）
- (2) 授業はいずれも5限目です。（他の総合クラスはすべて午前中にあります）
- (3) 場所は自然科学研究科本館です。
- (4) 生活に必要な表現を学ぶ実践的クラスです。

(5) このクラスを良い成績で合格した場合、修了後にA2クラスに進級することも可能です。

専門の関係で午前中のクラスが取れない学生や、とりあえず生活に必要な日本語だけ学習したいという学生に向いているクラスです。

なお、これ以外に宝町キャンパスで行われている医学部補講があります。医学部補講という名称ですが、医学部以外の学生も受講できます。

それぞれのクラスの特長を理解して、自分に合うクラスを受講してください。



ASクラスの授業風景

総合日本語プログラム（峯正志・深川美帆）

にほんぶんかしゃかいたいけん 日本文化・社会体験プログラム

りゅうがくせい にほんじんがくせい とも まな ば 留学生と日本人学生が共に学ぶ場として

さくねん あきがつき 昨年の秋学期にスタートした留学生センターが開講している日本文化・社会体験プログラムのコースご紹介です。これらのコースの特徴は、日本のさまざまな文化・社会について、留学生と日本人学生が共に学ぶことです。関心のある留学生、日本人学生、是非以下の図をご覧ください！

「日本文化・社会体験」秋学期 "Experiences in Japanese Culture and Society" Fall						
EF-1～EF-2：学生の授業登録に制限はない。 EF-3～EF-6：学生は4コースの中から一つだけ選択できる。		No restrictions for students' course registration. Students are able to select one course out of the four courses.				
コースの番号 Course Number	EF-1	EF-2	EF-3	EF-4	EF-5	EF-6
授業の英文名 Course Title (English)	Budō-Jūdō I	Budō-Karatedō I	Japanese Culture through the Way of Tea	Education in Japan	Ohji Pottery : Clay and Fire	Japanese Society and Traditional Culture I
授業の日文名 Course Title (Japanese)	杖道 I	空手道 I	茶道を通して学ぶ日本文化	日本の教育	大焼焼 ～土と炎～	日本の社会と伝統文化 I
教員 Instructor(s)/Coordinator(s)	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	深川 美帆 FUKAGAWA Miho	斉木 麻利子 SAIKI Mariko	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	山本 洋 YAMAMOTO Hiroshi
時間割 Timetable	毎週 Weekly	毎週 Weekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly
最大受入学生数(見込み) Maximum Student Enrollment (for Japanese students)	16	20	20	10	30	18
履修条件 Prerequisite(s)						日本語レベル C2～ Japanese level C2～
内容 Contents ※変更する場合があります Contents of class may change	杖道 Judo (Way of the Stick)	空手道 Karatedo	茶道 Tea Ceremony 伝統建築 Traditional Architects 華道 Flower Arrangement	幼児教育 Preschool Education 学校教育 School Education 特別支援教育 Special Education	大焼焼 (作陶、釉薬、窯焼き) Ohji Pottery (forming, carving, glazing, firing)	金箔工芸体験 Kinpaku (Gold Leaf)
	実技と理論 Practice and Theory	実技と理論 Practice and Theory	器 Ceramics 書道 Calligraphy 和菓子 Japanese Confectionery	学校訪問 School visit 自主研究 Individual Research		歴史博物館 History Museum 輪島塗・母絵体験 Wajimantai 工場見学 Factory visit
成績 Grading ※変更する場合があります Grading of class may change	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%	出席 Attendance 50% レポート Report 25% プレゼンテーション Oral Presentation 25%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%

「日本文化・社会体験」春学期 "Experiences in Japanese Culture and Society" Spring									
ES-1～ES-4：学生の授業登録に制限はない。 ES-5～ES-9：学生は5コースの中から一つだけ選択できる。			ES-1～ES-4：No restrictions for students' course registration. ES-5～ES-9：Students are able to select one course out of the five courses.						
コースの番号 Course Number	ES-1	ES-2	ES-3	ES-4	ES-5	ES-6	ES-7	ES-8	ES-9
授業の英文名 Course Title (English)	Budō-Jūdō I	Budō-Karatedō I	Budō-Jūdō II	Budō-Karatedō II	Family in Japan	Contemporary Art and Design	Japanese Art Performance and Music	Traditional Arts & Crafts and their Techniques	Japanese Society and Traditional Culture II
授業の日文名 Course Title (Japanese)	杖道 I	空手道 I	杖道 II	空手道 II	日本の家庭	現代アートとデザイン	日本の伝統芸能	伝統工芸と職人の技	日本の社会と伝統文化 II
教員 Instructor(s)/Coordinator(s)	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	斉木 麻利子 SAIKI Mariko	松田 真希子 MATSUDA Makiko	深川 美帆 FUKAGAWA Miho	ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko	山本 洋 YAMAMOTO Hiroshi
時間割 Timetable	毎週 Weekly	毎週 Weekly	毎週 Weekly	毎週 Weekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly	隔週 Biweekly
最大受入学生数(見込み) Maximum Student Enrollment (for Japanese students)	16	20	16	10	11	16	20	25	18
履修条件 Prerequisite(s)			Jūdō I (EF-1)	Karatedō I (EF-2)		日本語レベル C2～ Japanese level C2～			日本語レベル C2～ Japanese level C2～
内容 Contents ※変更する場合があります Contents of class may change	杖道 Judo (Way of the Stick)	空手道 Karatedo	杖道 Judo (Way of the Stick)	空手道 Karatedo	家族形態と機能について Form and Functions of Family	現代アート Modern Art	能 Noh	山中漆器の制作 (形成、塗り、装飾) Yamanaka Lacquerware (carving, painting, decorating)	金沢市水道局見学 Visit the Kanazawa City Water Filtration Plant
			実技と理論 Practice and Theory	実技と理論 Practice and Theory	ホームステイ体験 Home-stay	現代工芸 1 Modern Craft 1	謡 Utai		民謡 Minyo (Japanese old folk song)
成績 Grading ※変更する場合があります Grading of class may change	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 70% 実地試験 Examination 30%	出席 Attendance 50% レポート Report 25% プレゼンテーション Oral Presentation 25%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%	出席 Attendance 60% レポート Report 40%

日本文化・社会体験プログラム
ビットマンハイコ

ぶん か たいけん がく しゅう かなざわ がく
文化体験学習「いしかわ金沢学」
(Kanazawa Studies in Ishikawa)

地域の伝統文化を、留学生と日本人学生そして地域の人々と一緒に、体験を通して学ぶ「いしかわ金沢学 夏コースと秋コース」を今年も行いました。

金沢大学 Web 広報誌 e-Acanthus に掲載されたので、知っている人も多いかとは思いますが、下記のように行いました。

「いしかわ金沢学」夏コース (2012 年 7 月 28 日)

留学生センターは、「いしかわ金沢学」夏コースを開催しました。本学の留学生・日本人学生ら総勢 40 名が、石川県立能楽堂で、能楽や狂言の講義とそれらの体験、さらにはそれらの仕上げとして能楽の鑑賞を行う「能楽・狂言入門」の講座に参加しました。この講座では、本学の客員教授でもある宝生流シテ方能楽師の藪俊彦先生と助手の中村清先生や中谷信子先生、太鼓方の麦谷暁夫先生から、実際に舞台上で使用する能面や能楽器に手を触れ、所作や声の出し方を学びました。その後、和泉流狂言師の荒井亮吉先生からは、狂言について学びました。能舞台の中央に描かれている松の意味、空間の使い方、柱の役割などをはじめ、独特な発声方法など、興味を引かれる事がたくさんありました。



それらの講義の後「観能の夕べ」にて、狂言「柑子」と能「百萬」を鑑賞しました。参加者たちは、金沢の人々に愛され継承されてきた伝統芸能である能楽に、じかに接することで、日本文化に親しみ、理解を深めることができたようです。

「いしかわ金沢学」秋コース (2012 年 11 月 3 日)

留学生センターは、「いしかわ金沢学」秋コースを開催しました。「クールジャパン (アニメーション) ようこそトトロの世界へ」をテーマに、宮崎アニメ「となりのトトロ」の鑑賞後、角間の里で竹細工やどんぐりトトロの置物を作成するもので、本学の留学生と日本人学生、地域住民の計 31 名が参加しました。午前中のアニメの鑑賞では、昔の日本の郊外の田園風景や当時の親子関係、宗教観について、また電話の普及状況やポンプによる水汲みなど、

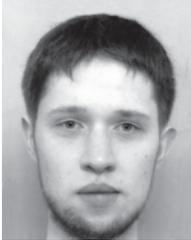


留学生の出身国との比較を通して意見交換を行いました。留学生の目を通してみた日本の親子関係の親密さには、とりわけさまざまな意見が寄せられました。また、午後に移動した角間の里では、金沢森林組合の方々の全面的な協力のもとに、竹細工に挑戦しました。トトロの時代の子どもたちが親しみを持つ遊びでもあった竹細工では、竹の切り出しから始めて「一輪挿し」「カップ」「はし」を作りました。参加者たちは、このような体験を通して、都市化される以前の日本と日本文化について理解を深めると共に、ジャパニメーションを楽しむことができたようです。

来年度も夏コース (7 月)・秋コース (11 月頃) を行いますので、是非参加してください。

かなざわだいがくたん きりゅうがく 金沢大学短期留学プログラム (KUSEP)

KUSEP プログラムに参加して



Schröder, Matthias
ドイツ、ジーゲン大学

私はドイツ出身で、ジーゲン大学で経済を専門に勉強しています。2011年10月から2012年8月まで金沢大学のKUSEPプログラムに参加していました。そこでは主に日本語や日本の文化について学びました。

日本に来た時はあまり日本語が話せず、上手になりたいと強く思っていました。そこで三浦先生のAAクラスに参加することになりました。そのクラスの授業はとても面白く、沢山勉強しました。午後には日本文化の授業もあり、日本人学生と一緒にいくつかの日本の伝統的な文化を学んだり、体験したりしました。たとえば、和紙やそば、加賀友禅、そして漆細工を実際作ったり、白川郷にも行ったりしました。それらは本当に特別な体験です。

困ったことがあったときは、先生方やチューターに相談し、助けてもらいました。先生方はいつでも話を聞いてくださいましたし、同じドイツ出身のビットマン先生には週一度、集中的に日本語を教えていただきました。チューターにも何回か会ううちに友達になり、一緒に能登や加賀温泉を旅行したり、実家に遊びにいたりしました。その時間はとても楽しく、感謝しています。

私は大学のすぐそばの留学生会館に住んでいたのも、生活はとても便利でした。様々な国から来た留学生とも知り合いになりました。そして趣味の空手道を半年間大学のクラブに参加し楽しむこともできました。クラブの学生たちはみんなとても親切で、たくさんのお話を教えてくれました。ドイツに帰っても空手道の練習を続けたいです。

また、金沢は古い歴史が残る街で、週末には色々な所を観光しました。兼六園や金沢城、忍者寺などは特に面白く、すてきなところです。それから岡山や京都や東京もりょこうしました。一番好きな場所は京都の伏見稲荷大社です。

残念ながらドイツに帰らなければいけませんが、ドイツに帰ったあとも日本語の勉強を続けたいです。そして日本から来る学生にも同じように貴重な経験をたくさんしてもらえよう、手伝ってあげたいです。私の留学は人生の大切な一部となりました。またいつか金沢に戻りたいです。



わたし たいげん 私の KUSEP 体験



Matiaskova, Lydia
スロバキア、スロバキア工科大学

皆さん、こんにちは。スロバキアのマティアシコヴァー・リーディアと申します。スロバキア工科大学の4年生で、土木工学と建築を専攻しています。2011年10月から2012年8月までKUSEPプログラムで金沢大学に留学しました。

私は高校のころ日本文化に興味を持ち、本を読んだり記録映画を見たりして日本のことを研究しようと思いました。その後ますます日本への興味が深まり、日本に行きたい、自分の目で日本を見たいと思うようになりました。そして留学生として日本に行くことができ、私の最大の夢が実現したわけです！でもさらにまた日本が好きになって、今は、将来日本や日本人と関係がある仕事をしたいと思っています。

日本で生活した一年間はかけがえのない経験になりました。まず、私の専門とは違うKUSEPの授業で新しいことをたくさん学ぶことができ、よかったです。日本語コースで文法、読解、作文などの授業を受けることにより、以前よりもずっと自信が持てるようになりました。東川先生の「日本の法と社会」の授業では、日本だけではなく世界のことも考えながら現代社会が抱える問題について話し合いました。他の文化圏の思想や習慣について知るの面白くて重要なことです。日本の美学に深い興味を持つようになってきたのは、「文化体験」のおかげです。ピットマン先生が教える杖道は日本武道との最初の出会いでした。身のこなし方は難しかったが、自分の身体と向き合えることができ、心も少し鍛えられた気がします。

勉強ではなく、日常生活の思い出もたくさんできました。私は初めて家族と離れて一人暮らしをしました。最初は少し怖かったですが、よい友達も見つかってあまり寂しくありませんでした。もちろん、困ったことはいくつかありましたが、今思えばそのおかげで自分が少し成長し、自立することができたと思います。助けてくれた先生や留学生センターの方にいろいろお世話になりました。本当にありがたいです。

またチューターや国際交流会館と一緒に住んだ留学生と、いい友達になることができました。よくお互いのところに遊びにいったり、一緒に旅行をして、毎日楽しく過ごしました。この友情が将来ずっと続けばと思います。

日本は本当にきれいで安全な国だと思います。また、私は金沢という伝統的な町に留学することができて、本当によかったと思います。特に日本の建築や庭園に興味を持っているので、よく時間があるときに町を散歩して、スケッチすることにより、自分の研究ができました。それにどこでも旅行したときに、素晴らしいところを訪れました。今、日本社会にもっと感じ入っています。私に素晴らしい機会を与えてくださって金沢大学にこちらより感謝します。

これからも、日本に興味を持っている人には、金沢に留学することを勧めます。



理工系 KUSEP (試行) がはじまりました！



留学生センターの看板プログラム「金沢大学短期留学プログラム (KUSEP)」から、理工系学生のための新しいプログラム「理工系 KUSEP」が生まれました。

このプログラムは、理工系留学生が日本語と日本文化を学びながら専門の研究もできるようデザインされています。今期は KUSEP に応募した学生の中から 7 名が参加しました。学生たちはそれぞれ金属材料、人工知

能、マンマシン、都市工学等の研究室に所属し、研究活動を行いながら日本語、日本文化を学んでいます。

理工系 KUSEP では特に研究室配属をプログラムの重要な柱としています。研究室に所属することにより、留学生は研究に力を入れることができるだけでなく、仲間との交流を通して人間関係を深めることができます。また、それが本学学生の刺激にもなり、彼らの世界への扉を開く機会にもなると確信しています。



研究室で研究する李明信さん



ハロウィン (ユン・ピョンヒョクさん・中央)

またこのプログラムのもう一つの特徴は、理工学域と留学生センターとの共同プログラムでもある点です。今後も理工学域の先生と相談しながらプログラムを運営していく予定です。



レビューエンヤク 刘婉亦さん

理工 KUSEP に参加して

呉 岳 (大連理工大学)

研究室のみんなは非常にやさしく、いろいろ教えてくれました。ちょっと忙しくとも、有意義な毎日を送っています。やはり今考えると、この KUSEP の理工プログラムに参加してよかったと思います。

(写真真ん中が本人)



担当：松田真希子・斉木麻利子 (留学生センター)・坂本二郎 (理工学域)

金沢大学セメスタープログラム



第三期セメスタープログラムが2012年4月～8月にかけて行われました。三期生はベルギー（ゲント大学）から4名、オーストラリア（オーストラリア国立大学）から4名、タイ（シーナカリンウィロート大学）から2名と、三カ国から10名が参加しました。

今年度からは全員が国際交流会館か大学の寮に入ることができたため、留学生や日本人学生との交流も日夜活発に行われたようです。

プログラムは全体的に好評で、最終評価アンケートでは87%が「満足」「とても満足」と答えました。また、3名が金沢大学・大学院への長期留学に興味があると答えました。



オーストラリアのトラン・ツーさんは「この人達が好きです。思いもよらないほどやさしいと思います。ここにきて良かったと思います。」と答えました。金沢の一番の魅力は人の優しさにあるようです。

ひきつづき更に魅力あるプログラムに育てていきたいと思っています。

日本で見つけた 「意外におもしろかったこと」

Jonathan Friedman (ゲント大学)

Every morning, a few elderly men and women say "Ohayou" to the kids who go to school near us. I really enjoy seeing them every morning with their smiles. It wakes me up in the morning and gives me energy. I will miss it.



右がジョナサン

担当：太田亨・松田真希子

日本語・日本文化研修プログラム

日本語・日本文化研修プログラムの一年間



王倩然

中国 北京工業大学

日研の一年間は充実していて、これまでの人生で体験したことのなかった一年間でした。今中国でこの文章を書きながら、日本での留学生活を振りかえってみると、なんだか泣きそうな気持ちになります。それほど日本が大好きになりました。

日研の特徴はこの一年間でみんな必ず一つの研究をして、最後にレポートを出すことです。日研は大変だとよく先生方や留学生の友達に言っていたのですが、私にとって、そこが成長できる場所でした。論文の授業でも、発表の授業でも、教室の雰囲気が非常に盛り上がっていて、発言や質問がどんどん出てきて、本当に楽しかったです。ほかの国の人の意見も聞くこともできて、外国の知識が増えただけではなく、客観的に中国を見る機会も得られました。最初は研究のことまったく分からなかったのですが、一年後にきちんとしたレポートを出すことができ、達成感でいっぱいでした。

もちろん、授業での勉強ばかりではなく、金沢という伝統的な町だからこそ体験できたこともたくさんありました。金箔、茶道、加賀友禅、九谷焼、蒔絵、地引網等、数多くの体験をしました。なにより、印象深かったことはその先生の家を訪ねて、そこでありのままの伝統文化を体験したことでした。地引網が終わってから、捕った魚をその場で刺身にしたり、焼いたりして食べたことも忘れられません。

また、日研では里親という制度があります。里親のおかげで、普通の日本人はどのように生活をしているか、普通の日本の家庭はどのようなものなのかを身近に感じることができました。その家庭との絆もきつと切れることがないと思います。





この一年間で一番欠けてはいけないことは何かと聞かれるなら、私は「飲み会」だと答えます。日本のそういう飲み文化に感心しました。日本のお酒を味わうこともできれば、日本人やほかの留学生や先生方とのコミュニケーションもできました。授業で聞けないこともその場で遠慮なく言えるので、飲み会の雰囲気はとても気に入りました。いつも「ストレス発散」という言い訳でみんな飲み会に行っていました。飲んで、誰かと話した後、確かにまた前向きな気持ちになったような気がしました。

忘れられないことはまだまだあります。スキーに行つて温泉に入ったことも、百万石祭りの時町で踊つたことも、能登の祭りで汗まみれになって海に飛び込んだことも、全部私の宝物になりました。



この一年間を一言で言うなら、修了式で友達が言っていた言葉を引用したいです。「最高の一年間でした!」と。

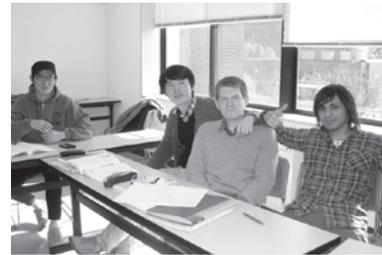
みんなそれぞれ自分の国に帰ってしまったのですが、この一年間で体験したことはきっとこれからの人生のどこかで生かせると思っています。



大学院予備教育（日本語研修コース）

コース概要

日本語研修コースは、1995（平成7）年後期に第1期が開始され、2012（平成24）年後期で35期になりました。対象となる留学生は、はじめの頃は日本国文部科学省の国費留学生だけでしたが、2004（平成16）年からは、総合日本語コースのAAクラスと位置づけられ、対象学生の幅が広がり、短期交換留学生（KUSEP）や研究生や社会人学生もこのコースに受け入れられるようになりました。月曜日から金曜日まで一学期15週間、午前中の2コマをAAクラスとして一般日本語初級の授業が行われ、午後は正規の研修コース生と希望者に対して、口頭発表、作文、会話、文化体験、日本人学生との協働授業（VOTAK）などが行われています。留学目的の異なる多国籍の留学生たちが集まり、たいへんぎやかで楽しいクラスです。留学生たちは一学期間仲良く集中的に初級日本語を学んでいます。今学期が終わると、このコースの修了生は、296人になります。



35期AA日本語研修コースの学生たち



35期VOTAKクラス



33期来日直後



34期VOTAKクラス

研修コース修了生たちの活躍

今回は、現在、世界と日本で活躍しているコース修了生たちが、今年金沢大学をおとずれて講演をしてくれたことを報告します。

第一回留学生ホームカミングデイで研修コースOB二人の准教授が活躍

2012年11月10日の金沢大学ホームカミングデイ(卒業生同窓会)に合わせて、留学生たちの初めてのホームカミングデイのシンポジウムが行われました。素晴らしい午後でした。プログラムは、副学長・国際機構長の山崎光悦教授の挨拶に続いて、基調講演、楽器演奏、OB二人の小講演、現在留学中の3人の留学生のスピーチが行われました。すべて英語で行われました。

研修コースOBは、現在活躍中の国立大学の准教授二人でした。まず基調講演を、日本語研修コース第2期修了生(1997)で、東京工業大学学術国際情報センター准教授のピパットポンサ・ティラポン(Pipatpongsa Thirapong)さん(タイ王国出身)が、「なぜ金沢大学に留学したのか、金沢大学で学んだことをどのように活かしているか」という演題で、金沢大学の研修コースと修士課程から現在の研究までの足跡を、ユーモアを混ぜながらたいへん面白く話してくれました。次いで第8期生(1999)で、埼玉大学外国語教育センター准教授のアドリアナ・エドワーズ(Adriana Adith Edwards Wurzinger)さん(アルゼンチン出身)が、ギターを弾きながら古いアメリカ、イギリス、パタゴニアの歌を美しい声で聞かせてくれました。続く小講演は、「単なる仕事ではない Not Just a Job」という演題で、教育・教育者について考えさせられる、迫力のある素晴らしい講演でした。



ホームカミングデイ 2012.11.10



講演会 2012.12.05

東京の大使館で活躍した研修コースOBが北アフリカ情勢を講演

研修コース第6期修了生(1998)のアメッド・ナイリ(Ahmed Naili)さん(リビア出身)が、2012年12月5日に金沢大学を訪れました。東京のリビア大使館の参事官として勤務し、2010年からの「アラブの春」の激しい政変後、帰国してリビアで生きる国際人ナイリ氏に、貴重な個人的体験を通して、北アフリカの直面する問題、日本との関係について語っていただきました。世界について目が開かれる、大変面白い講演でした。

研修コースは、単に日本語教育を集中的に行うコースではなく、専門分野での研究を視野に入れて、「初級から行う専門への橋渡し」を行ってきました。専門分野の第一線で活躍する修了生を多勢排出しています。今後も修了生たちの活躍を報告していきたいと思っております。

(日本語研修コース担当：三浦香苗)

「プリンス頓 in 石川 (PII) プログラム 2012」

プリンス頓大学等の学生との交流会を実施

6月13日、アメリカ・プリンス頓大学等の学生と本学学生との交流会を実施しました。

来学したのは、県が行う「PII=プリンス頓・イン・いしかわ」事業で来県したプリンス頓大学をはじめとするアメリカの複数の大学の学生50名。中村信一学長の歓迎のあいさつで始まり、本学学生約60名を交えて角間キャンパス内の「すみれ亭」で会食しました。その後、金沢大学創りつ五十周年記念館「角間の里」に移動し、「Cool JAPAN」についてのグループディスカッションを行ったり、文化体験ではけん玉に挑戦したりしました。交流会の終わりには別れを惜しむ姿があちこちで見られました。



今年も「百万石踊り流し」に参加しました

6月2日、第61回金沢百万石まつり「百万石踊り流し」に、本学の留学生、日本人学生、地域の子どもたちから大人まで、総勢100名を超える人たちがチームをつくり、「金沢大学留学生センター 地球の仲間プロジェクト」として参加しました。

「金沢ホーヤネ」「ふれあい音頭 いいね金沢」「百万石音頭」の3曲を、2時間半にわたって踊り、沿道の市民や学生たちからたくさん拍手をもらいました。

この踊り流しには、71のチームとおよそ10,000人が参加しました。梅雨に入る前の、じめじめした憂鬱な気候を吹き飛ばすかのような、そして事前の練習の成果を十分出し切った、見事な踊りを披露することが出来ました。



は けんりゅうがく ぶ もん 派遣留学部門

Welcome to Kanazawa University!

留学生センター派遣留学部門のミッションは、キャンパスの「国際化」を支援することにあります。そのため、学内の関係部局だけではなく、交流協定校とも連携しながら、いろいろなイベントや学習の機会を企画し実施するのに加え、本学学生が海外に留学するためのサポートを行っています。おかげさまで、ここ数年間で留学に旅立つ本学学生の数も増大しており、これには留学生センター教員一同、大いに感激しています。学生たちが留学先の国際交流に貢献しながら様々な経験をし、よりいっそう立派になって本学に戻ってきてくれることを、何よりの誇りに感じています。

さて、今年度の『留学生センターニュース』では、そのような学生たちの代表として、経済学類4年生の加藤玲央名さんに、留学生のみなさんへのメッセージを書いてもらいました。加藤さんからの熱いメッセージを以下に紹介します。(斉木 麻利子)

留学生のみなさんへ

人間社会学域経済学類4年 加藤 玲央名

留学生のみなさん、金沢大学へようこそ！金沢の生活にはもう慣れましたか？慣れない環境で生活しはじめると、体調を崩しやすいものです。いきなりですが、みなさん大丈夫ですか。

さて、私は2011年9月から2012年8月まで台湾師範大学に派遣留学しました。留学を経験して外国の文化を知り、また日本の文化を再認識することができました。その経験を踏まえて、これから金沢で留學生を送るみなさんに参考にしていただきたいことをいくつか紹介したいと思います。

まずは失敗を恐れず、かむしゃらに日本語の勉強をください。金沢大学で日本語の勉強ができるという素晴らしい機会を、存分に活用して日本語能力を高めてください。私が台湾に留学したとき、最初の二週間は先生が何を話しているのかさっぱりわからない状態で、宿題もたくさん出て苦しみました。だけど、最初から日本語がペラペラに話せたら留学する意味なんてありませんよね。誰でも最初はうまく日本語を話せません。間違えることがあって当たり前です。発音や細かい文法ばかり気にせず、どんどん日本語を使ってみてください。

日本語の勉強をする、と言ってもただ机に向かって勉強するだけとは限りません。積極的にサークル活動やイベントに参加してください。金沢大学ではスポーツ系、文化系のサークルがたくさんあるので、是非参加して日本人の友達をたくさんつくってください。サークルの情報はインターネットや、学生会館の生協の近くの掲示板にポストされているので、その情報をもとに興味があるサークルを探してください。また、金沢では4月の兼六園でお花見、6月の百万石まつりの踊り流し、8月の花火大会、能登の里山里海体験、留学生と金沢の人の交流イベントなどがあります。是非参加してみてください。



サークル活動やその他の交流イベントに参加することの一番のメリットは、日本人の友達ができやすいことです。私は台湾に留学していたとき、クラスメイトはもちろん全員外国人だったので、授業だけ受けても何もしなければ留学生活ならではの友達はできない状況でした。そこで、私は台湾の伝統スポーツであるドラゴンボートという競技の試合に参加するサークルに入りました。メンバーの半分が台湾人学生で、残りの半分が日本人学生だったので、台湾人の友達がたくさんできました。また、そのサークルの友達とも一緒に遊んだりして自分の友達を増やしていきました。



台湾でサークルに所属したときに、私は日本人の特徴を二つ見つけました。一つ目は、日本人は協調性（ハーモニー）を重視しすぎるため、自分の意見をはっきりと言えない人が少ないということです。日本人の発言はあいまいな表現を使うことが多いので、みなさんが日本人と話すとき、相手がイエスと言っているのかノーと言っているのかわかりにくいことがあると思います。センテンスを最後まで言い切らずに相手に考えさせる話し方も、日本人によくある特徴です。留学生のみなさんは、このように自分の意見をはっきり言わない日本人に対して、少しイライラしてしまうことがあるかもしれません。でも、大丈夫です。私が留学期間所属していたサークルでは、日本人が思っていることを口にできなかったせいで、メンバーの不満がたまってトラブルになり、話し合いをした経験がありました。その時に感じたのが、お互いに自己表現の仕方は違ってもコミュニケーションをとろうとする気持ちさえあれば、問題は解決できるということです。ですから、みなさんも日本人が何を意味しているのかわからないときは、素直に聞いてみて相手と向き合ってください。

二つ目の日本人の特徴は、日本人は真面目な人が多いことです。特に時間に対する考えがとても厳しいです。ドラゴンボートの練習時間に遅れてくる人、練習を無断で休む人がいたとき、日本人メンバーはみな、とても不思議に思いました。日本では、ぜひ日本人と待ち合わせの約束をしたら、時間通りに着くようにつとめましょう！もし時間に遅れる場合や、ドタキャン（約束の日になって急に約束をキャンセルすること）の場合は、なるべく早く相手に連絡するようにしましょう。時間を大切にすることが日本人との友人関係をスムーズに保つコツだと思います。

最後に、金沢での留学生活をしている間にいろいろな人に出会おうと思います。その一期一会をどうか大切にしてください。私は日本に帰国する一か月前ほどから、小さいノートを一冊用意して、台湾で出会った友達にメッセージと名前と連絡先を書いてもらいました。そのノートは私の宝物になりました。みなさんも是非やってみてください。また、留学期間の時間は限られているので、やりたいと思ったことがあれば思い切って挑戦してみてください。帰国して「あの時、あれをや



っておけばよかった」と思うことがないように、行きたいと思ったところには行き、やりたい活動があったら積極的に参加してください。金沢での留学生活をとにかく楽しんでください！みなさんが毎日笑顔で、金沢大学での留学生活を送れることを願っています。

相談指導部門

留学生のみなさん、ようこそ金沢大学へ

金沢の冬は寒く、雪もたくさん降ります。風邪を引かないように、また体調を崩さないように注意して、暗い冬を乗り越えましょう。そして、キャンパスの中や地域の方々と心暖まる交流を通して、日本での留学生活を楽しんでください。

さて、お知らせが2つあります。

その1. 2012年7月9日から新しい在留管理制度がスタートしました

2012年度の秋学期から日本での留学生活をはじめた学生たちには、この新制度が適用されていますが、2012年の7月9日以前に来日した留学生の方々にお知らせする変更点は、次の4点です。

1. 「在留カード」が交付されます。
2. 在留期間が最長5年になります。
3. 再入国許可の制度が変わります。
4. 外国人登録制度が廃止されます。(法務省出入国管理局 パンフレットより)

現在では、成田・羽田・中部・関西の4つの空港において、「在留カード」が交付されるとともに、在留資格が「留学」である学生は、「資格外活動許可申請」が出来るようになります。留学以外の活動つまりアルバイトは、留学生にとって、留学生活を支える大切な経済的側面であり、またアルバイトを通して地域や日本を学び、日本の人々と交流する良い機会ともなります。しかし、留学生のアルバイトは、その内容や時間が決められています。留学の目的を達成するために、学業と両立可能なアルバイトのために、アルバイトをはじめる前に、指導教員とよく話し合ってください。そして、必ず、指導教員の許可をもらってから始めてください。それは、みなさんの留学目的を達成するための大切な手続きとなることを、忘れないでください。

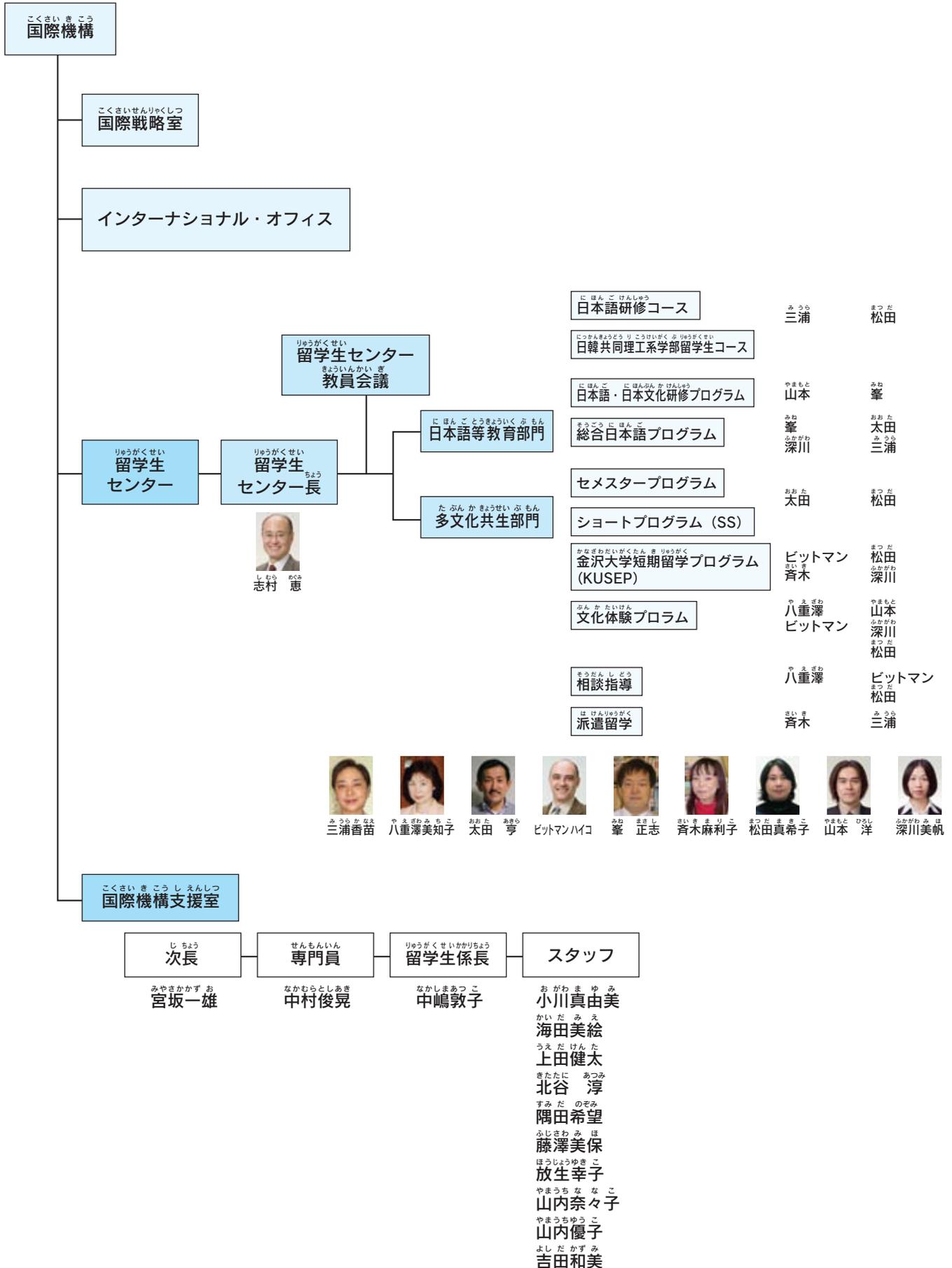
その2. ことばと文化の架け橋プロジェクトを知っていますか

地域で活動している様々なボランティア団体に対して、留学生が出身国の状況を説明する報告者として参加するプロジェクトです。防災・農業・絵本の読み聞かせなど、日本人が知りたい異文化を説明し、交流を深めます。既に、何人もの留学生たちは、このプロジェクトに参加しています。

報告者として参加したい留学生や、もっとこのプロジェクトについて知りたい留学生は、深川美帆先生 (mihofk@staff.kanazawa-u.ac.jp) に連絡してください。

そ し き ず 組織図

こくさい きこう 留学生センター ・ こくさい きこう し えんしつ そ し き ねん ど
国際機構留学生センター ・ 国際機構支援室組織 (2012年度)



りゅうがくせい

留学生センターのホームページを知っていますか？

留学生センターのいろいろな情報を4つの言語で読むことができます。

にほんごばん
日本語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp>

ちゅうごくごばん
中国語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/ch/>

えいごばん
英語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/>

かんこくごばん
韓国語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/kr/>



金沢大学留学生センターニュース 第16号

2012年12月28日 発行

発行 金沢大学国際機構留学生センター

〒920-1192 金沢市角間町

TEL (076) 264-5237

FAX (076) 234-4043

ryukou@adm.kanazawa-u.ac.jp

この冊子は、植林・森林認証取得
木材使用など環境ISO取得工場に
て作られた用紙を使用しています。